

透析患者さんの骨密度と胸部大動脈石灰化の関連の検討について

研究の目的： 2009年に測定した透析患者さんのデータから、骨密度と生命予後との間に有意な関連があることが明らかになりました（Iwasaki T, et al. Association Between Bone Mineral Density of the Distal Third of the Radius and Mortality in Patients on Hemodialysis, a Retrospective Cohort Study. Iran J Kidney Dis. 2021 Jul;15(4):306-313）。そこで、同じ2009年に測定した胸部大動脈石灰化のデータと骨密度のデータに関連があるかどうかを検討することにしました。

研究に用いるデータ：2009年に当院で透析をうけておられた患者様の胸部大動脈石灰化、骨密度、年齢、透析歴、採血データを使用させていただきます。

個人情報の管理：データは病院内で解析し、匿名化された結果を公表することになります。個人情報が漏洩することはありません。

データ提供による利益・不利益：本研究にデータを使用させていただくことによる患者様の利益・不利益は発生しません。

研究結果の発表：学会発表を予定していますが、患者様が特定されるような内容は含まれません。

データ使用の取り止め：研究にご自身のデータが使用されることに同意されない場合は、いつでも下記責任者にその旨を教えてください。いつでも取り止めは可能です。取り止めをしても何ら不利益を受けることはありません。

研究責任者
甲南医療センター 腎臓内科
部長 藤森 明